



# 成田市の英語教育 生きた英語を学ぼう

成田空港をもつ「国際空港都市」として、本市は英語教育に積極的に取り組んでいます。ことし5月には「国際教育推進特区」に認定され、さら充実した英語教育が行われています。

## 小学校

英語や異文化に  
慣れ親しんで

「ハロー！ハウ・アー・ユ？」  
「アイム・ファイン」  
「グレイト！」

英語活動の授業の始まりです。平成11年10月に2週間に1回でスタートした20分間の英語活動の授業は、14年4月から週1回に、10月からは週2回に拡充されました。そして、この10月からは週3回になり、児童が英語に触れる機会がさらに増えていきます。

市内の公立小学校では、学級担任と外国人英語講師のチームティーチングという形で、英語活動の授業が進められています。歌やゲームを取り入れ、英語に慣れ親しむことを目的に「聞く・話す」活動を中心にした授業を行っています。

小学5年生の9月の活動テーマは「インタビュをしよう」。英語で相手の出身地や、好きな動物などを尋ねる表現を練習。月の終わりに、「メイ アイ アスク ユー アクエスチョン？」などの表現も織り交ぜ、外国人英語講

師に尋ねられるようになりまし  
た。

英語活動をさらに進め、国際交  
流活動として実施している学校も  
あります。

これは、市内に住んでいる外国  
人や、仕事や観光で成田を訪れた  
外国人の人を招き、もてなしの体験  
をするものです。6～8人のグル  
ープに、一人の外国人が入り、子  
どもたちが英語で質問したり、日  
本の伝統的な遊びを体験してもら  
ったりと、各学校が創意工夫した  
内容で実施しています。

普段の授業で習った英語が通じ  
たことに、安心した表情をのぞか  
せる子。ジェスチャーを交えなが  
ら、積極的に話し掛ける子。表情  
はさまざまですが、楽しいひとこ  
きを過ごしている様子があがえ  
ます。



平成小での交流風景

## ゲストティーチャーを 招いて

平成13年度から、ミシガン州の教員と本市の教員が相互交流する事業が毎年行われています。

今年度は、ミシガン州から2人の教員が成田を訪れ、6月末から7月初旬の2週間滞在しました。小学校教員のメアリー先生は遠山小学校で3日間過ごし、さまざまな活動に参加しました。算数の



ミシガン州の教員が授業を(遠山小)

授業では、学級担任とのチームティーチングが行われ、子どもたち一人ひとりに声を掛けました。子どもたちも、メアリー先生の英語を聞き取ることに一生懸命でした。

## 中学校

実践的コミュニケーション  
能力の基礎を目指して

中学校では、50分間の英語の授業が週3回行われています。さらに、選択教科として英語を学習することが出来ます。

市では、今年度から一部の中学校を除き各中学校に1年を通して外国人英語講師を派遣しています。学校には常時外国人英語講師がいるので、放課後や休み時間にも外国人英語講師と触れ合う時間ができ、英語学習への意欲が高ま

ってきています。

授業は、英語科教員と外国人英語講師が一緒に授業を行い、聞く・話す・場面を多く設定し、生徒たちの実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことを目指しています。週3回の通常の英語授業だけでなく、選択授業でも外国人英語講師による生きた英語に接する機会が増えています。

## 毎年行われる サンブルノ市との交流

姉妹都市であるアメリカ・サンブルノ市の中学生との交流が行われています。今年度は、サンブルノ市パークサイドスクールから10人の生徒が吾妻中学校を訪問しました。美術・理科・英語などの授業に参加したり、部活動を体験したりと交流を深めました。

## 9年間の 英語教育を通して

文部科学省の研究開発学校である成田小学校と特区研究開発学校である新山小学校では、教科としての英語科を設置し、先導的な取り組みを進めています。これらの取り組みの成果がほかの小学校に広がり、成田の英語教育の推進につながっています。



一緒に鶴を折りました(吾妻中)

さらに、本市がことし5月に国際教育推進特区に認定されたことにより、小学校での英語教育の充実が一層図られていくこととなります。

また、小学校の英語教育を中学校の英語教育に効果的に生かすために、成田中学校区や中台中学校区では、小中学校の教員が相互に授業参観し、指導法の共通理解を図る機会を設けています。

このほかにも、小中学校教員の合同研修会が行われ、指導法の向上を図るとともに、それぞれがどのように英語教育を進めているかを知る機会となっています。

小学校から中学校までの9年間の授業を通して、英語でのコミュニケーションができるような児童・生徒の育成を目指していきます。

成田市の英語教育について詳しくは教育指導課 ☎ 20 158 (2)へ。



久住・豊住中学校  
外国人英語講師

ナジャ・マレー先生

## 英語を実感して欲しい

わたしは、アメリカのニューヨーク市出身です。もともと日本に興味をもち日本語や文化を勉強していました。4月から久住中と豊住中に派遣されたばかりです。

授業は英語科の先生と一緒に教えます。生徒たちがわたしと話すことで、生きた英語を使っているという実感をもってもらえればうれしいです。小さな学校なので、一人ひとりに接することができていいですね。

いろいろな質問がありますが、その中で気が付かなかった文化の違いなどを教えられることもしばしば。身をもって教えることの難しさを感じています。



加良部小学校  
英語主任

堀 幸夫先生

## 教師も必死で勉強しています

加良部小学校の英語教育はまだ始まったばかりで、わたしたち教師も外国人英語講師と相談し、模索しながら授業を行っています。小学校での英語は、子どもたちに楽しく英語に触れてもらうことが一番。外国人英語講師の生きた英語を聞いて、見て、まねすることから始め、歌やゲームを取り入れて、子どもたちが積極的に参加できるように授業を工夫しています。

わたしたち教師の意識改革も大変です。通勤中に英会話のテープを聞いたり、中には英会話学校に通い始めた人もいたりして、みんな必死ですよ。

校内に楽しい英語があふれるような環境をつくっていきけるよう、努力していきたいと思っています。